

<文献紹介>河野忠著 『弘法水の事典 : 日本各地に伝わる空海ゆかりの水』

MATSUO, Hiroshi / 松尾, 宏

(出版者 / Publisher)

法政大学地理学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

JOURNAL of THE GEOGRAPHICAL SOCIETY OF HOSEI UNIVERSITY / 法政地理

(巻 / Volume)

54

(開始ページ / Start Page)

87

(終了ページ / End Page)

87

(発行年 / Year)

2022-03-20

【文献紹介】

河野 忠 著 (2021年11月)

『弘法水の事典—日本各地に伝わる空海ゆかりの水』

朝倉書店, 393p, 8,500円 (+税)

日本各地に伝わる弘法大師(空海)ゆかりの水・弘法水について纏め上げられた書(事典)が刊行された。平安時代初期に生きた弘法大師にまつわるモノ・コトが日本各地に残り、地域の文化として根付いていることに大変興味を持つ人は多いであろう。本書に紹介された日本全国に分布する「弘法水」について、改めて興味を惹かれる。本書は弘法水を民俗学や歴史・地理学さらに自然科学的視点から解説したユニークな研究書であり、著者が長年研究テーマとして多岐にわたった実地調査の研究成果であり、資料・データブックとして編集された大著である。

本書は以下の構成からなる。

総説編

- 第1章 弘法大師の伝説
 - 第2章 弘法水の分布
 - 第3章 弘法水の水文科学的特徴
 - 第4章 弘法水の水質
 - 第5章 弘法水の用途と効能
 - 第6章 弘法水と伝承に登場する人物
 - 第7章 四国八十八ヶ所遍路道に存在する弘法水
 - 第8章 弘法水の変質と今後の課題
- ### 地域編
- 全国47都道府県別の弘法水

本著の内容は総説編と地域編の393頁からなり、前半の総説編では、弘法水にまつわる伝説・歴史、全国各地の弘法水に関わる井戸、湧水等の分布、民俗・歴史・地理学的解説とともに弘法水の科学的特徴や水質等の実態調査に基づく水文科学的特徴が解説されている。また、弘法水の効能や四国遍路道と弘法水の関係等の興味深い内容もある。

後編(地域編)では日本全国で確認された1500ヶ所余にもおよぶ弘法水について、それぞれの水利用形態や保存状況、言い伝えなどを都府県別に整理し、豊富な写真を用いて紹介されている。全国各地の身近なところに弘法水があることに驚きを感じる。

弘法大師・空海は平安時代初期(774年~835年)の真言宗の開祖で、804年に遣唐使として中国に渡り、約2年の短期間の留学で中国密教をはじめ土木技術や薬学等多分野を修学して帰国し、日本の仏教・真言宗の普及はもとより、書家、文人としての活躍や香川県の満濃池工事でも知られるような用水、溜池整備による農業振興に携わったとされている。

また、弘法大師は日本各地で修業を積んだため、空海にまつわる寺院、仏像、空海にちなんだ祀り、発見



した温泉、湧水などその痕跡が多く残る。「弘法も筆の誤り」「弘法筆を選ばず」などのことわざ、小説や映画などでも多く描かれているように現代にまで日本文化や思想に多大な影響を与えている。

弘法大師の誕生、修行の地である四国の辺地を旅する八十八ヶ所の遍路道は、江戸時代には修行僧だけでなく一般庶民が信仰や物見遊山で旅したお遍路道として広まったが、そのお遍路道ルートも寺や井戸、湧水のある弘法水と関わっているという。また弘法水の用途・効能等についての記載も興味深い。

本書を全国の図書館や行政の関係者(地下水、水資源、文化財保護、教育委員会等)に普及し、地域の貴重な資産として理解されることを望む。

同著者の「名水学ことはじめ—自然・人文科学の観点から」(2018)は日本の名水について様々な視点で纏められており、本書同様関係者にお勧めしたい。

参考: 河野忠 研究室ホームページ

<http://es.ris.ac.jp/~kono/e.html>

(松尾 宏)